

2021年度 第3回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2022年3月22日（火）14時00分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：18名 オブザーバー：21名 計39名

○協 議 （1）2022年度事業計画（案）および収支予算（案）について

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画等に関する事業の進捗

- ①あきた芸術劇場の開館に関する取組について
- ②千秋公園大手門の堀遊歩道整備基本計画について
- ③千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について
- ④地域連携 IC カード「AkiCA（アキカ）」のサービス開始について

（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業等の進捗

- ①秋田県、秋田市への要望に対する回答について

○情報提供 東北経済産業局からの資料提供「国の施策紹介について」

（発言内容）

- ・ あきた芸術劇場ミルハスは開館に向けて工事が進められ、完成が間近となっている。9月のグランドオープンから年内は、大ホールと中ホールともに予約で埋まっており、年明け以降も土日を中心に予約が入るなど、今後、ミルハスの来館者で中心市街地が賑わうことが期待される。
- ・ 千秋公園大手門の堀内に親水遊歩道を整備する計画が進んでおり、2025年春に開館予定の佐竹史料館の建て替えと合わせ、千秋公園全体がより魅力あるスポットとなり、中心市街地の賑わいを牽引するエリアとなることが期待される。
- ・ 公共交通では、今月26日から地域連携 IC カード「アキカ」の利用が開始される。本サービスによる利便性の向上により、路線バスを活用した来街者の増加や回遊拡大に繋がることが期待される。
- ・ これらのことについては、後ほど関係機関から詳細についてご報告いただくが、それぞれの取組が中心市街地の活性化に相乗効果をもたらすことを望んでいる。
- ・ 本日は、来年度の事業計画と予算についてご協議いただく。昨年10月に広小路バザールを開催し、広小路を軸とした中心市街地の集客力を改めて実感した。引き続き、来年度の開催に向けて当協議会で協力していきたい。
- ・ 秋田商工会議所の新規事業として、中心市街地の交通環境改善に向けた新たな調査事業を、中心市街地のにぎわい創出の観点を踏まえ実施することを計画している。こちらについても当協議会の協力のもと取りまとめていきたいと考えている。

【協 議】

(1) 2022年度事業計画(案)および収支予算(案)について

事業計画(案)・収支予算(案)について、事務局が以下のとおり説明した。

- ・ 来年度の協議会は、6月、11月、2023年2月に開催する。

(実施事業(1) 次期中心市街地活性化基本計画の策定支援)

- ・ 現行の第2期基本計画が期間満了となることから、来年度、新たな計画を策定し、引き続き、中心市街地の活性化に取り組んでいく。
- ・ 今後のスケジュールについて、6月に開催する第1回当協議会において現況を報告し、11月の第2回協議会に原案を提示する。2023年2月の第3回協議会に計画書案についての意見聴取を行う。2022年度末の計画作成完了を目指す。

(実施事業(2) 芸術文化ゾーン活用研究会)

- ・ 中心市街地芸術文化ゾーン内にある文化施設、商店街、行政機関等の連携のもと、芸術文化ゾーンを有効活用した活力あるまちづくりの方策を引き続き検討する。

(実施事業(3) 中心市街地「芸術・文化・商業」情報発信事業)

- ・ 中心市街地内の芸術・文化施設および商業施設や飲食店の情報を掲載する「アートなまち歩き」を年4回発行し、中心市街地内での来街者の回遊を推進するとともに、同誌ウェブサイトの掲載情報の充実とリアルタイムな情報発信に努め、まち歩きツールとしての普及を図る。

(実施事業(4) 広小路バザール開催への協力)

- ・ 中心市街地への定期的な賑わい創出を図るとともに、県内物販事業者等に同市街地への出店機会を設けることを目的とする広小路バザールの開催に協力する。
- ・ 来年度は7月3日(日)、9月18日(日)の計2回開催を予定している。

(実施事業(5) 中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査の実施への協力)

- ・ 2019年11月には千秋広面線の手形陸橋4車線化が実現、2021年3月には千秋久保田町線の対面通行化が開始された。
- ・ こうした中心市街地の交通環境の変化や賑わい創出の観点を踏まえ、秋田商工会議所が「中心市街地の交通環境改善に向けた調査事業」を実施することから、当協議会においても本調査に協力する。

(実施事業(6) 情報発信事業)

- ・ 芸術文化ゾーン活用研究会構成団体が実施する事業を周知するため、PR用のパンフレットスタンドをぽぽろーどとにぎわい交流館AUへ継続設置する。

(実施事業(7) 中心市街地循環バス「ぐるる」車内広告の利用促進)

- ・ ぐるる車内広告を利用して、芸術文化ゾーン活用研究会構成団体や周辺商店街が実施するイベント情報を発信する。

(実施事業(8) あきたチャレンジマーケット、まちなカフェ等の利用推進)

- ・ 中心市街地の賑わい創出と新たな出店を促進するため、クイックテントやテーブル等を無料で貸出しする。

以上、事業計画(案)・収支予算(案)についてご審議をお願いしたい。

→原案通り承認された。

【報 告】

(2) 秋田市中心市街地活性化基本計画等に関する事業の進捗

①あきた芸術劇場の開館に関する取組について

秋田市企画調整課の橋本課長補佐が以下のとおり報告した。

- ・ あきた芸術劇場ミルハスについて、6月開館、9月23日グランドオープンに向けて準備を進めている。建物本体は3月17日に受け渡し完了しており、一部外構工事を5月20日までに行い全施設が完成予定となっている。
- ・ 4月から5月にかけて施設内の備品搬入を行う。6月6日からホール以外の貸出を開始し、9月26日からは大・中・小ホールの貸出を行う。
- ・ ミルハス施設見学会を4月9日、10日に実施する。募集対象は県内在住の小学生以上120名とし、ホームページおよび往復ハガキによる応募を受付けている。申込多数の場合は抽選を行う。
- ・ 6月5日の開館記念式典について、2部構成とし、第2部は一般観覧者400名を無料招待し、大いなる秋田の演奏を行う。秋田市出身の佐々木新平氏が指揮し、秋田吹奏楽団が演奏、県内小中高生や民間グループが合唱する。4月1日から観覧希望を募集し、県・秋田市・ミルハスのホームページで周知するほか、秋田市広報4月15日号に告知掲載する。

②千秋公園大手門の堀遊歩道整備基本計画について

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり報告した。

- ・ 遊歩道整備は、千秋公園再整備基本計画の基本方針「中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり」の施策の一つに位置付けられており、東側ポケットパークから中土橋へつながる遊歩道を整備し、歩行者動線を強化するとともに、ハスの観賞や親水空間の充実を図ることを目的とする。
- ・ ハスの鑑賞や水辺の景観を楽しむための場であり、個人でもグループでも高齢者や車椅子利用者でも誰もが安全で安心して利用できることを想定している。
- ・ 動線計画について、歩行者動線を強化するとともに、ハスや親水空間の魅力を向上させることや、ハスに囲まれた空間を創出し、広小路側からの景観を妨げないように、離れた位置に遊歩道を整備し、芸術文化施設との一体的な利用とするため、堀の北側を通る動線ルートとしている。
- ・ 幅員について、通路部は車椅子がすれ違えるように1.8m確保し、鑑賞部は大人がゆっくりハスを見ることができるよう0.6mとする。施設幅は両端0.3mずつとし、計3.0mに設定している。
- ・ 構造について、想定される地盤状況や水質への影響等を考慮し、盛土や杭基礎では施工が大規模となることから、浮棧橋構造を適用する。浮棧橋はフロートのうえに柵などを設けることから、地盤の影響を受けにくく沼地や湿地に設置されるケースが多い。
- ・ 遊歩道上に約50m間隔で観賞用スペースを設けるほか、ハスに囲まれているような体験ができる出島を設置する。
- ・ 遊歩道の設置に併せて、東側ポケットパークのデッキを改修するとともに秋田市文化創造館に接する部分をデッキ形状で整備する。
- ・ 今後のスケジュールについて、3月に整備基本計画を秋田市ホームページにて公表し、来年度は詳細設計のうえ工事着手し、2023年度の供用開始を目指す。

③千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり報告した。

- ・ 千秋公園利用者の利便性と快適性を高める新たな公共サービスとして、公民連携事業に繋がるかどうか検証するために、キッチンカーによる飲食店営業を実施した。出店場所は東側ポケットパークとし、2021年5月1日から7月31日の期間で行った。全6社が出店し、出店日数は23日（うち土日祝日5日）、出店累計台数は29台。6社合計の販売金額は188,600円、1日あたりの販売最高額は22,200円/社、販売平均額は6,503円/社であった。
- ・ アンケート調査結果について、購入者からは「今回の取組は大変良い」の回答が最も多く59%を占めた。また来店のきっかけについて「店舗を見て」が59%、「SNS」が26%の順で多かった。一方、出店者からは、実施場所の市場性について「悪い」が67%を占めた。
- ・ 公共スペースを利用した先駆的な取り組みであり、現在では市役所本庁舎や西口駅前芝生広場等でもキッチンカーを出店させているなど事例も増えてきている。東側ポケットパークについては、出店者から現状では市場性は悪いとの結果となったが、遊歩道を含め計画されている周辺施設の整備が進めば状況の変化も見込まれることから、施設整備の進捗状況に合わせ再度検討したいと考えている。2022年度については、千秋公園二の丸等について検討したが、年度当初から継続的に整備工事等も予定していることから、社会実験は実施しない予定である。

④地域連携 IC カード「AkiCA（アキカ）」のサービス開始について

秋田中央交通(株)の旭谷取締役営業本部長が以下のとおり報告した。

- ・ 3月26日からAkiCAの販売・利用を開始する。バス運賃の支払いのほか、Suicaのサービスが利用でき、2022年度中にIC定期サービスなどの地域独自のサービスを展開する予定である。
- ・ 取扱窓口について、当社営業所・案内所で「販売、チャージ、払い戻し」等の対応をする。発売額は1,000円であり、チャージ額500円、デポジット（預り金）額500円となる。バス運賃の支払いのほか、Suica利用加盟店でのお買い物にも使用でき、Suica以外にもPASMOやKitacaなどのエリアの加盟店でも利用できる。
- ・ 詳細については、ご利用ガイドをご覧ください。当社ホームページにも掲載している。

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ 千秋公園大手門堀の親水遊歩道について、ハスの鑑賞者の視点だけでなく、お堀全体の景観も考慮すべき。
- ・ 経路について、広小路と並行しているため、広小路の歩行者が分散し賑わいがまばらになるという見方もある。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- ・ 遊歩道は水面から1.5m程度の高さに設置される。ハスも水面上1.5~2.0mまで成長するため、周囲から見るとハスの中に歩行者がいるようなイメージである。
- ・ 東側ポケットパークからハスを鑑賞しながら、秋田市文化創造館やミルハスへ繋がる歩行者導線を強化するために遊歩道を整備する。

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ ハスの生育期間の景観は考慮されているが、冬などの生育期間外は遊歩道が特に目立って見えるだろう。詳細設計の際は、お堀の景観に調和するようなデザインとするなど、十分検討していただきたい。
- ・ 事業自体はおもしろい発想であり、期待している。事業スケジュールを見る限り難しいかもしれないが、試験的に設置し改良したうえで本格整備をしたほうがよりよいものが出来上がると思っている。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- ・ 広小路からお堀を見た場合、約 20m の距離に視線が集まる傾向にあることを踏まえ、それよりも奥に遊歩道を整備することとしている。
- ・ 今後、小杉委員からの意見を参考にしつつ詳細設計等を進めていきたい。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ お堀のうえを歩くという非日常の体験ができるという狙いから本事業はスタートしており、ハスやスイレンが咲く時期、桜の時期、雪の時期など四季を通じて楽しめる、違和感のない施設となるようにしていただきたい。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 遊歩道について、千秋公園内に静的ではないアトラクション要素のあるものが整備されるという点は高く評価できる。
- ・ 冬場は土手だけが見えるなんとも言えない景色であり、その中に遊歩道が整備されてもあまり影響はないと思っているが、小杉委員の考え方は重要であり、是非反映していただきたい。
- ・ 夜間のハスのライトアップについて、今年度実施されたが、ハスだけが照らされ周辺が真っ暗だったため、改善を望む。

(2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業等の進捗

①秋田県、秋田市への要望に対する回答について

今年度、秋田商工会議所が秋田県、秋田市に要望した項目と、要望に対する回答について、事務局が報告した。

(要望項目)

- ・ 外旭川地区まちづくりの対応
- ・ 広小路・中央通りの一方通行解除等中心市街地の交通環境改善の継続検討
- ・ 次期秋田市中心市街地活性化基本計画策定に向けた調査事業の実施
- ・ あきた芸術劇場ミルハスの開館に合わせた賑わい向上対策
- ・ 千秋公園の更なる魅力向上
- ・ 秋田市ナイト観光の更なる充実
- ・ 芸術文化ゾーンの活用策等を検討する場の設置

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 広小路・中央通りの一方通行解除の件について、県が 2016 年に調査・検討した際、一方通行解除に伴う渋滞解消のために 4 車線化するとなると多額の工事費用等が発生するため困難と結論づけた。それを踏まえ、秋田商工会議所では来年度、既存の 3 車線のままで一方通行解

除を解除した場合の検証や賑わい創出の観点も含めた実施効果について、秋田大学に依頼し調査する予定である。調査結果を踏まえ、秋田県・秋田市に対し一方通行解除等について改めて要望したいと考えている。

【情報提供】

東北経済産業局より提供された「中心市街地活性化等支援事業」に関する資料を出席者に配布した。

【その他】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ 西武秋田店が仮に退店した場合、中心市街地の核が一つ無くなってしまう。営業の継続に向けた要望書を提出するなどタイミングを見て即行動できるよう、今から準備しておいたほうがいいと思われる。
- ・ 秋田と福井は地方の中で西武が出店している地域であり、外商機能が強いと聞いている。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 地元住民等からも営業の継続を望む声がある。また駅前ではビューホテルが ANA クラウンプラザホテルに変わり、民間マンションの建設計画など、民間企業による中心市街地活性化に繋がる動きがある。百貨店は街の重要な構成要素と考えているので、出店継続に向けた働きかけなどを検討していきたい。

事務局が以下のとおり発言した。

- ・ 秋田商工会議所は西武秋田店を含む駅前商業施設との情報交換を定期的に行っているが、店舗の現場には今後の情報は入っていないとのこと。当所でも注視している案件であり、必用に応じ迅速に対応する。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 次期基本計画の策定について、西武や木内を含む大型商業施設の今後の動向を十分考慮したものとしていただきたい。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 中心市街地のランドデザインを描いていく中で、個別の商業施設に丁寧に対応しながら、出来るところから順次着手していきたい。

閉 会